

三ヶ日みかんの歴史

三ヶ日みかんの始まり

三ヶ日みかん栽培の始まりは、「紀州ミカン」です。今から約 280 年前(江戸中期)、三ヶ日町平山地区の山田弥右衛門が、西国巡礼の時に紀州那智地方から「紀州ミカン」の苗木一本を持ち帰り庭の片隅に植えました。

紀州ミカン

紀州ミカンは、現在栽培されている温州ミカンより、小さいが、香りが強く甘くておいしいです。種がたくさん入っています。この時代のミカンの種類は、種のあるものばかりでした。

山田弥右衛門の持ち帰った紀州ミカンは、たいへん甘かったので、苗木をつくり、家の近くに数十本植えられました。その後、平山地区から三ヶ日町全体に広まっていきました。

しかし、100 年ほど前に三ヶ日に入ってきた「温州ミカン」に押されて「紀州ミカン」はなくなっていきました。

温州ミカン

「温州ミカン」は、三ヶ日町平山地区の加藤権兵衛が、天保年間に三河の国吉良地方から苗木を導入し庭園に植えたのが始まりです。「温州ミカン」は実が大きく、種がなくて味も甘いので「温州ミカン」が入ってからは、「紀州ミカン」を植える人はなくなりました。しかし、「温州ミカン」がミカン園としてまとめて植えられるようになったのは、明治時代になってからです。

明治末期から大正時代にかけて、病害虫の防除をするなどミカンの栽培技術が一つ一つ確立されてきました。それによってミカンの急激な生産増と品質の向上が図られたことは言うまでもありません。

しかし、明治時代の中ごろから大正時代の中ごろまでは、「養蚕」が盛んでしたので、一度植えられたミカンを抜いてクワに植えかえたりしました。この時代は、ミカンがあまり儲かる作物でなく、「養蚕」「い草」のほうがお金になったのです。蚕(カイコ)の餌のために畑にクワの木を植えたのです。大正時代になるとミカンの値段がよくなり、「養蚕」にかわって「ミカン」が増えてきました。

大正 7~8 年ごろ第一次世界大戦は日本に好景気をもたらしましたが、米騒動が端を発した不況の波は、ミカンの生産増強にブレーキがかかり、大正時代後期から昭和にかけて養蚕への転換がみられました。荒廃園も現れる状況になりました。

ミカンが後退した理由は、経済的な混乱やミカンの価格低迷と養蚕の好況だけでなく、冬季の寒風による被害と、農家の技術の未熟、管理不十分に起因していました。

そこへ、大正 9 年に専任技術員として中川宗太郎が 着任し、画期的なミカン栽培を指導、その技術を先人たちは地域に普及させました。それは「まきの木の防風林」や「せん定」「防病害虫防除」「土作り」などで、三ヶ日の土地や気候にあったミカン栽培技術を広めました。また、ミカンの価格を上げるため、従来の「山売り」ではなく出荷組合による販売方法をすすめ、数地区で出荷組合が組織され共同出荷が始まりました。

その努力があつてこそ、不況を乗り越え、三ヶ日みかんの灯を消すことなく燃焼し続けて今日を迎えることができます。

三ヶ日みかんの発展に尽くされた三大恩人を山田弥右衛門、加藤権兵衛、中川宗太郎と定め、その三人に感謝する記念碑「柑橘頌徳碑」が三ヶ日町を見渡せる稲荷山公園に建てられています。毎年 11 月には、三大恩人への感謝とミカン産業の更なる発展を祈って三大恩人の子孫らが集まり「柑橘頌徳祭」が開かれています。

ミカンの一年

良いミカンを作るために大切なこと

一年中いろいろな仕事がありますが、肥料をまいたり、病気を防ぐため防除などでミカンの木を育てます。

また、なりすぎた実や傷ついた実を採る摘果(てっか)は、良いミカンの収穫にはかせません。



仕事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害虫防除												
肥料												
摘果												
収穫												
貯蔵												
出荷												
その他												

荷 受 設 備	トラックアンローダー	2台	
	手動荷降しステーション	3台	らくらくハンド付
	フォークリフト入庫ステーション	1台	
	原料パレット自動倉庫	340棚	貯留量:16,320コンテナ
	自動搬送台車	5台	ループ式
コンテナ搬送貯留設備	ロボットデパレタイザー	4台	
	空コンテナ段積装置	4台	
	空コンテナプールライン	26レーン	貯留量:3,640コンテナ
	空コンテナ段崩装置	1台	
	空コンテナ洗浄機	1台	
前 処 理 設 備	空コンテナパレタイザー	1台	
	コンテナスケール	4台	
	コンテナダンパー	4台	
選 別 箱 詰 設 備	清 浄 機	4台	
	PK式選果コンベアー	45条	
	6画面計測カラーグレーダー	45台	
	内部品質センサー	45台	
	傾動型自動秤量機	77台	
製 品 搬 送 封 函 設 備	インクジェットプリンター	4台	等階級印字
	ウェイトチェッカー	4台	
	自動封函機	8台	ホットメルト式
製 品 仕 分 設 備	1次ソーター	2台	
	ジェットサーフィンソーター	1台	
	マジッククロス	2台	
製 品 出 荷 設 備	ロボットパレタイザー	9台	
	製品パレット自動倉庫	290棚	貯留量:20,880箱
	プ ー ル ラ イ ン	24レーン	貯留量:2,160箱
	ケ ー ス 自 動 倉 庫	1,944棚	コンテナ対応
	自動搬送台車	9台	ループ式
製 函 空 函 搬 送 設 備	自動搬送台車	2台	シャトル式
	トラック用ストックライン	2式	水平結束機付
	資材ストックライン	31レーン	
情 報 設 備	自動製函機	11台	ホットメルト式
	選果システム	1式	計数処理、製品管理
	情報システム	1式	生産計画、販売管理
	FAX/OCRシステム	1式	集荷/出荷計画
	マッピングシステム	1式	園地管理、品質管理
そ の 他 設 備	組合員Webシステム	1式	組合員経営支援
	腐敗果処理装置	2台	500kg/台(1日の処理量)



JAみっかび柑橘選果施設



事業概要

◆補助事業名
平成12年度農業生産総合対策事業
国内農業生産流通体制整備強化対策事業
(事業費) 総事業費 2,841,263千円

◆補助事業名
平成23年度強い農業づくり交付金事業
(事業費) 総事業費 845,439千円

◆施設規模
建物(既存建物利用)
北棟 5,613.98㎡ 中二階 2,351.25㎡
選果棟 2,478.58㎡ 南棟 4,566.00㎡
床面積合計 15,009.81㎡
選果プラント
外観カメラ
光センサー式選果プラント 45条
処理能力 70t/時間



MIKKABI



平成12年度農業生産総合対策事業

三ヶ日町農業協同組合柑橘選果施設



名 称	年 月 日	内 容
第1期選果機改善委員会設置	平成9年5月	整備目標及び基本方針 システム研究
第1期選果機改善委員会解散	平成11年5月	理事会中間報告
第2期選果機改善委員会設置	平成11年7月 平成11年12月	整備目標の確認 選果機メーカー説明会
第1回選果機改善座談会	平成12年2月	24支部
三ヶ日町農協21世紀農業推進 幹事会発足	平成12年4月	事業計画協議
三ヶ日町農協21世紀農業推進 協議会発足	平成12年4月	事業計画協議
推進協議会・幹事会	平成12年5月	規模決定根拠協議
推進協議会・幹事会合同	平成12年6月	糖酸センサー・カラーグレーダー勉強会
推進協議会・幹事会	平成12年6月	概算見積仕様書等協議
推進協議会・幹事会	平成12年7月	参考見積協議
第2回選果機改善座談会	平成12年8月	24支部
第2期選果機改善委員会解散	平成12年9月	選果場建設委員会設置承認
第1回建設委員会	平成12年9月	今後のスケジュール プラントメーカー選定方法
第2回建設委員会	平成12年10月	プラントメーカー検討 基本設計及び見積条件
第3回建設委員会	平成12年11月	プラントメーカー第1回説明会の実施 仕様検討
第4回建設委員会	平成12年12月	プラントメーカー第2回説明会の実施 仕様検討
第5回建設委員会	平成12年12月	プラント仕様検討 見積設計の承認及び契約方法 発注条件、日程等協議
第6回建設委員会	平成12年12月	プラント仕様検討 見積設計の承認及び契約方法 発注条件、日程等協議
第7回建設委員会	平成13年1月	最終プラントメーカー説明会
補助金交付決定	平成13年1月	
第8回建設委員会	平成13年1月	見積設計・目標価格の決定 競争見積の実施
第3回選果機改善座談会	平成13年2月	24支部
第9回建設委員会	平成13年2月	建物改修計画 解体工事(指名業者選定、発注条件協議)
第10回建設委員会	平成13年3月	解体工事入札会
第11回建設委員会	平成13年4月	土間改修工事概要 土間改修工事指名業者選定 プラント実施設計の検討
第12回建設委員会	平成13年4月	土間改修工事入札会 建物改修、電気設備工事指名業者選定 プラント実施設計の検討
第13回建設委員会	平成13年5月	建物改修、電気設備工事入札会 プラント実施設計の検討
第14回建設委員会	平成13年5月	プラント実施設計承認
起 工 式	平成13年6月	
第4回選果機改善座談会	平成13年6月	24支部
第15回建設委員会	平成13年6月	土間改修・完成検査
第16回建設委員会	平成13年8月	プラント仕様検討(自動荷降し装置) 工事現場視察
第5回選果機改善座談会	平成13年10月	24支部
工 事 完 成	平成13年10月	
第17回建設委員会	平成13年10月	竣工検査
引 渡 し	平成13年10月	
竣 工 式	平成13年10月25日	



- ◆補助事業名 / 平成12年度農業生産総合対策事業
国内農業生産流通体制整備強化対策事業
- ◆施設名称 / 柑橘選果施設
- ◆事業主体 / 三ヶ日町農業協同組合
- ◆設置場所 / 静岡県浜松市三ヶ日町三ヶ日字中島872・1外3筆
- ◆工事期間 / 建築関係 着工 / 平成13年5月9日
プラント 完成 / 平成13年10月18日
- ◆事業費 / 総事業費 2,841,263千円 (内、国庫補助金 1,228,500千円)
《内訳》 プラント工事費 2,530,500千円
建築関係工事費 207,863千円
その他設備 102,900千円
- ◆施設規模 / 建物 (既存建物利用)

北棟	5,613.98㎡	中二階	2,351.25㎡
選果棟	2,478.58㎡	南棟	4,566.00㎡
		床面積合計	15,009.81㎡

 - ／ 選果プラント
 - カラーグレーダー、光センサー式選果プラント 45条
 - 処理能力 70t / 時間

◆自動荷降し装置(トラックアンローダー)

生産者は専用パレットに積まれたトラックを自動荷降し装置上のコンベアに車を止めるだけで、自動的に荷降しを行うことができます。

◆IDボール荷受システム

IDチップを埋め込んだボールにデータを記録させることにより、スムーズな荷受処理と荷口の切替えを行うことができます。

◆パレット式自動倉庫(原料一時保管)

生産者が持ち込んだ原料コンテナをスムーズに選果機に供給するために一時原料保管として340パレット分を収容します。又、空パレットの保管も行います。

◆高品質選果システム

カラーグレーダー(全周計測)により、色・傷・形状の判別と光りセンサーにより糖・酸の計測をします。従って、消費者にはバラツキのない品質保証された「M三ヶ日みかん」を提供できます。

◆製品仕分け出荷設備

高品質選果システムにて選果、箱詰めされた製品は、パレットにより高速仕分けを行いパレット式自動倉庫、ケース自動倉庫、プールコンベアにて製品のストック・出荷を行います。

◆情報処理システム

ファックスOCRにより生産計画から販売出荷計画を行い、年間選果計画を作成します。又、集荷されたみかんを、糖・酸・色・傷などの計測項目別に情報処理を行い、園地別に統計処理をし、それを基に高品質なみかん作りのための栽培指導を行います。

